連載　沖縄の有用植物資源　第7回（パパイア）

『沖縄の有用植物資源』第7回目は、パパイアを紹介したいと思います。

パパイアは、熱帯アメリカ原産で、現在は世界各地の熱帯、亜熱帯地域で栽培される常緑高木です。樹高は3～10mになり、一般に雌雄異株ですが雌雄同株のものもあります。成熟果実は果物として、未熟果実および若葉は野菜として利用されています。沖縄では方言名をパパヤーまたはマンジューイと言い、未熟果実を炒め物として食します[1),2)]。

生薬では、果実を番木瓜〈バンモクカ〉、葉を番木瓜葉〈バンモクカヨウ〉といい、葉や種子にアルカロイドのCarpaine（カルパイン）という成分を含みます。カルパインは、抗腫瘍作用や抗菌作用、中枢抑制作用などが報告されており、また、強心薬としても用いられたりします。その他には、果実にタンパク質分解酵素のPapain（パパイン）を含み、これはタンパク質消化剤および食肉の軟化剤として利用されるほか、寄生虫の駆除薬としても利用されています[3),4)]。

工業技術センターでは、経常研究においてDPPHラジカル消去能試験を行い、パパイアの未熟果実および成熟果実に抗酸化活性を[5)]、血圧上昇抑制の指標としたACE阻害活性試験では葉、茎にその阻害活性を確認しました[5),6)]。また、病態モデルマウスを用いた効果確認試験において、パパイア未熟果実の凍結乾燥物がマウスの収縮期血圧の上昇を有意に抑制することを確認しました[7)]。

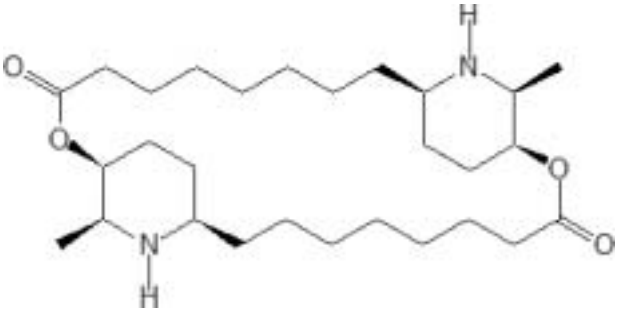
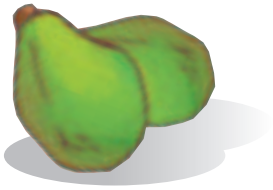
参考文献

1)世界有用植物事典　堀田満ほか編集、1996年発行　平凡社
2) おきなわの薬草百科 大田文子、多和田真淳共著（1985）新星図書出版
3)原色牧野和漢薬草大圖鑑　三橋博監修（1998）北隆館
4)中薬大辞典　（1998）小学館
5)平成11年度 沖縄県工業技術センター研究報告 P35-57
6)平成13年度 沖縄県工業技術センター研究報告 P77-84
7)平成13年度 沖縄県工業技術センター研究報告 P85-92

パパイア（パパイア科）

方言名：マンジューイ、パパヤー

学名：***Carica papaya L.***



Carpaine（カルパイン）